

## 成田市教育委員会会議定例会会議録【会議概要】

平成26年11月成田市教育委員会会議定例会

期日 平成26年11月19日(水) 開会：午後1時25分 閉会：午後5時

会場 成田市役所5階503会議室

### 出席委員

委員長	小川 新太郎	委員長職務代理者	高木 久美子
委員	福田 理絵	委員	佐藤 勲
教育長	関川 義雄		

### 出席職員

教育長	関川 義雄 (再掲)		
教育総務部長	深山 芳文	生涯学習部長	藤崎 祐司
教育総務課長	伊藤 和信	学校施設課長	藤崎 宏行
学務課長	柳 鶴 暁	教育指導課長	大竹 誠司
学校給食センター所長	後藤 文郎	生涯学習課長	秋山 雅和
生涯スポーツ課長	大矢 知良	公民館長	木川 義夫
図書館長	須賀澤 賢治	生涯学習課課長補佐	木内 悦夫
教育総務課計画調整係長	鈴木 浩和	生涯学習課文化振興係長	小川 雅彦
教育総務課課長補佐(書記)	加瀬林 操		

### 【会議概要】

#### 1. 委員長開会宣言

#### 2. 教育長報告

#### 主催事業等

○10月24日 第32回成田市公民館まつりについて

好天に恵まれ大盛況の中、セレモニーを実施することができ良かった。例年、この日に向けて作品や発表の準備をされている方々の意欲は本当に素晴らしい。生き生きとされている姿に感

銘を受ける。

○10月27日 北総教育事務所指導室訪問について（三里塚小）

三里塚小学校の指導室訪問に参加した。三里塚小学校は外国籍児童数が、市内で最も多い学校であり、その他様々な理由で生徒指導上の課題を多く抱える学校の一つである。この日は北総教育事務所指導室の先生方だけでなく県教育庁教育振興部から指導課長もおみえになり一緒に各教室の授業を参観した。課長は文部科学省から出向されている方でまだ若い方であり、県内の学校を参観されるのは今年2校目ということだそうで厳しい実態を知っていただくためには大変良いことだと思った。三里塚小では様々な要因により、学級運営が厳しい状況にあると判断される学級が複数あり学校職員も懸命になって指導にあたっているが、疲労感も見え教育委員会としても今後人事配置に格段の配慮が必要だと感じた。

○11月2日 国際子ども絵画交流展2014について

今年度のテーマは「ふるさと H o m e t o w n」として作品を募集したところ、市内の小中学校から1,077点、海外からは16カ国、655点の出品があった。市内入選作品、小学校474点、中学校99点の合計573点を展示し、この中から特別賞20点とフレンドシップ賞40点を選出。また、海外からの入選作品332点を展示するとともにフレンドシップ賞34点を選出した。今回のテーマは前回とは違って、比較的描きやすいテーマだったと思う。各国の作品を見ると、色の使い方の違いや描かれた地方の様子などが良くわかり、なかなか興味深く拝見することができた。

○11月3日 玉造中学校創立30周年記念式典について

文化の日に玉造中学校の創立30周年記念行事が開催された。会場には第6代玉造中学校長でもある小川委員長にもご出席いただき、盛大に執り行われた。ニュータウンの急激な人口増に伴って吾妻中学校からの分離となった玉造中学校だが、既に30年が経過し、この学校の卒業生のお子さんがもうこの学校の生徒になっているというのを聞くと月日が経つのも早く感じられる。これを一つの区切りとしさらなる発展を期待したい。

○11月6日～13日 北総教育事務所次長・管理主事訪問について

11月10日に下総みどり学園で実施された次長訪問に参加した。北総教育事務所次長及び、管理主事等がみどり学園を訪れるのはこれが初めてであったので、授業参観はもとより学校施設も詳しく案内した。ここで展開されている教育を間近で見学し次長も感銘を受けたようであ

った。今後小中一貫教育校に対する人事配置など学校の特質を生かした教育に県人事担当者の強力な支援を期待したい。同時にこの機に県への要望もあげていきたい。

#### ○11月7日 学区審議会について

今年度第2回目の審議会。今回の議案は、指定学校変更・区域外就学許可基準の要件の変更についての審議していただくとともに学校適正配置に係る課題についても各委員のご意見を伺ったところである。特に9月議会で議員から質問のあった新山小学校と加良部小学校の件については、学区変更をするほどの状況にはないとの判断をされるご意見があったこと、むしろ学区変更を考えるよりも大規模校から小規模校へ指定学校を変更できるようなシステムを考えた方がよいのではないのご意見も頂いた。加良部と新山は同じ加良部地区だからこそその問題だとの指摘もあるが、まだ時間をかけ保護者の意見も聞きながら検討を続ける内容であるように思う。現状認識は各個人によっても相当の開きがあるように思われる。児童生徒数の変化に敏感すぎてはならない。複式学級が複数できるような小規模校ではないのだから、また、学校そのものの教育力が低下しているわけでもない。

#### ○11月8日 神宮寺小学校創立30周年記念式典について

玉造中学校に続いて神宮寺小学校でも創立30周年行事が執り行われた。当日は地域伝統芸能全国大会の初日だったこともあり私自身は、大変あわただしい中での参加となった。神宮寺小学校の式典は児童を前面に出した催しで子どもも保護者もじっくり楽しめる内容で本当に素晴らしかった。出来上がった記念誌も子ども中心のものとなり卒業生の誰もがそれを見て笑顔が出るようなものであり、実行委員会の目指したものがまさに的を得ていたように感じた。今後の発展を願う。

#### ○11月11日 大栄地区小学校統合推進委員会について

統合推進委員会の佐藤委員長が教育委員になられたことで、推進委員に欠員が生じたこと。また、新委員長を決めなければならないという中で実行委員会が開催された。新たに委員となられた方は、同じ津富浦学区の方で加藤氏が選任された。加藤氏は建築設計関係の仕事をされている方と伺っており大栄地区の様々な催しでも運営の核になって活躍されているとのこと。本委員会でも委員選任と同時に委員長も任されることとなった。今後この委員会が中心になってやらなければならないことも多くあり教育委員会としても共に協力し合って新しい学校の建設に努めていきたい。

○11月12日 学校教育振興基本計画庁内委員会について

児童生徒、保護者、教職員へのアンケート調査結果がまとまり、その報告とともに、基本計画策定に向けた現状と課題・基本的な考え方を整理し、庁内の各委員に示した。同じものが本日の会議の中でも報告されるので参考にさせていただきたい。膨大な内容であり意見を求めてもすぐに回答できるものでもないが、あくまでも基本的な計画を定めるものなので時間をかけてじっくり読み込んでいただき、後日でも構わないのでお気づきの点があればご意見をいただきたい。庁内検討委員会でもそのような締めくくりとした。次回の会議は来年2月の予定である。

**その他**

○10月23日 タイ・ランカムヘン大学の学生訪問（本城小学校）について

タイの公立大学であるランカムヘン大学の学生と職員が日本の小学校を見学し学校の教職員との意見交換をしたいとの要望があり、それを成田市が引き受けることになった。彼らは成田市内のホテルに宿泊し、ここを起点に関東地方を中心とした観光や学習をするという企画であり、ちば国際コンベンションビューロー、県商工労働部観光誘致促進課の推薦があつて実現したものの。ただ一度に来校する学生が80人から90人という数であり大型バス2台がほぼ満員の状況で学校訪問されたため、それぞれ対応してもらった下総みどり学園、本城小学校、公津の杜小学校には大変ご迷惑をおかけした。学生は大変熱心に見学し、質疑応答の時間もいっぱい使って様々な質問を出していた。学生にとってはこの時間が大事な単位の取得につながるものだったようで、真剣な表情で参加していた。

○10月24日～11月11日 下総みどり学園視察について（印西市教育委員会他）

下総みどり学園で印西市教育委員会の視察訪問を受けた。教育委員長さんをはじめ全教育委員さんと、教育部長、学校教育課長さんなど多くの参加者があつた。みどり学園の視察はすでに何度も行われていて対応する我々も学校職員ももうすっかり慣れてきた。手順も決まったもので迷いはなく、とにかくできる限り広く大勢の方に知っていただくことが大切、という考え方で丁寧に視察に応じている。この学校での成功が多く市の町村に波及し、ひいては日本の教育を変える力になればいい。

○10月29日 2014成田市青少年音楽祭について

今年度は21校の参加。このうち中学校は成田中と遠山中の2校のみの参加だった。例年はもう少し早い時期での開催であるが、今年度は様々な行事が集中していたこともあり、この日

にずれ込んだ。この音楽祭はコンクールではなく、参加した小中学生が互いの演奏を聴いて学んだり交流を深めることを目的にしている。当初は青年会議所が中心になって開催していたものが、今は青少年育成市民会議が主体となっている。市町村合併で学校数も増えるなど長く続けていると様々な問題が生じてくる。開催前から地区の青少年健全育成協議会のメンバーから、この行事の在り方を再検討する必要もあるのではないかと声を聞いていたが、いざ実施してみると子どもたちの真剣な取り組みに感動し、やっぱり続けていこうとなる。どちらにしても、学校行事との関係で適切な開催時期を考えること、参加校を募る前に各校の音楽担当者とよく話し合い調整を図ること等々、今後継続する際には、こうした反省点をしっかりと踏まえ、より効果的な行事にしてほしいと感じた。

○11月1日 成田市制60周年記念式典について

この式典には、全委員さんが出席されたので、ここでは特に報告の必要はないと考える。

○11月3日 防火ポスター展表彰式について

毎年開催しているポスター展である。学校の授業で取り上げて描かせるものではないため、子どもの自主性に任せて実施する学校がほとんどだと思うが、それだけにこの展覧会に出品する子は大変前向きな子どもたちであると思う。表彰を受けて喜ぶ子どもの顔、それをやさしく見守る家族の方々の顔が印象的であった。こうした取り組みが効果的に作用して防火に役立てられると良い。

○11月5日 平成26年度 印教連 研修視察について

聖徳大学では肝心の福留先生の講演時間が短すぎて大学案内が中心になってしまったようで私自身では不満が残るものとなった。また、午後から視察した松戸市立上本郷小学校では言語教育科と言う学習の中で英語や国語の取組を参観したが、特に英語については書く取組を実践しているとのことで興味を持ったが、改めて成田の英語教育の積み上げた力の大きさを実感することとなった。それよりも800人を超す児童のいる学校で、昼休みに相当多くの子が校庭に元気いっぱい遊んでいる姿に感銘を受けた。健全な学校であるとの印象を強く持った。

○11月7日 成田市職員表彰式について

3年以上部長級（9級）に在籍した職員3名に功績賞が授与された後、30年勤続表彰の職員28名と20年勤続表彰の職員44名について表彰状を授与した。30年、20年の勤続表彰を受けた職員は、昨年に比べ大幅に増えている。

○11月8日 日本の祭り in 成田2014について

高円宮妃殿下をお迎えし、地域伝統芸能全国大会が本市の国際文化会館を中心に開催された。このような大きな大会をこれまで政令市以外の市レベルで実施することはなく、本市では市職員の大部分がこの大会に協力する体制で実施した。おかげさまで心配された天気も何とか持ちこたえ、無事に大会を終えることができた。それぞれの地方の伝統芸能の素晴らしさを実感するとともに、市として皇室の方をお迎えするのは、本当に久しぶりのことで、対応する誰もが相当の緊張をしていた。妃殿下は大変気さくな方で誰にも気軽に話ささせておられたが、やはり我々には敷居が高くなかなかお話しすることはできなかった。ホテルで行われた「交流の夕べ」では、ホテルも相当緊張し素晴らしい対応をしていただいた。多くの方とお話しでき、改めてこの大会の重さを知ったところである。大会成功のため多くの職員が支えてくれたことに心から感謝したい。

○11月9日 第16回伊能歌舞伎公演について

大栄公民館大ホールで定期公演があった。毎年、後継者問題を抱えながら何とか運営されてきている皆様には本当に頭が下がる思いだ。特にこの歌舞伎復活当初から支援くださっている景山先生が92歳という年齢にも関わらず毎年必ずおいで頂き、言葉を頂けるのは本当にありがたい。何とかこの伝統を受け継いでいきたいものである。

○11月9日 世界少年野球大会開会式への出席依頼（佐倉市岩名野球場）

伊能歌舞伎定期公演の日、地域伝統芸能大会も華々しく開催されていたが、私はこの日の午後、佐倉市の岩名運動公園や球場に行き長嶋茂雄さんとお会いし、来年成田市で開催される予定の世界少年野球大会開会式へのご出席を依頼してきた。長嶋さんは、脳梗塞を患ってから手足が不自由となっているため、名刺交換も、こちら側が一方的にお渡しすることになってしまったが、左手で受け取っていただき、私から少しだけお話しさせていただいた。大変お忙しい方で私も2～3分ほどの時間しかいただけなくて十分気持ちを伝えるまでには至らなかったが、お会いできただけでもありがたいと感じた次第である。

○11月9日 地域伝統芸能全国大会友好訪問団歓迎夕食会について

長嶋さんとお会いした同日の夕方からホテル日航成田で地域伝統芸能全国大会開催にあたって海外からご招待したデンマーク王国ネストベズ市の文化委員会委員長、リトアニア共和国アリートゥス市副市長等、海外から5名の方々をお招きし、市と国際交流協会が主催し歓迎夕食

会を開催した。それぞれ母国語が異なるため、会話はすべて英語で行うしかなく語学に堪能ではない私には若干敷居が高かったが、何とか気持ちは通じたようで楽しいひと時を過ごすことができた。リトアニアは成田市の友好姉妹都市ではないが、関根副市長がネストベズ市を友好訪問した際、ネストベズ市から友好都市として招待されていたリトアニアのアリートゥス市の方と出会ったことがきっかけとなって、本市にも友好訪問していただいたとのこと。

○11月10日 成田市制施行60周年記念事業成田市民パークゴルフ大会について

久住パークゴルフ場で、市制60周年記念と称して市民パークゴルフ大会が開催され、その開会式に出席した。参加者はほとんどが年配の方々が普段から相当パークゴルフをされている方々ばかりで相当な腕前を持った方が多く驚いた。一本のクラブで全ホールを回るのが、ゴルフとは違うところで、これはこれで難しい競技だと思った。ただ、特別強い力があるわけではなく誰でも気軽に安価に楽しめるところが素晴らしいと思った。久住パークゴルフ場は18ホール備えている。是非皆さんも一度試してみたい。

○11月12日 ボブスレー日本代表強化選手 玉造小学校職員 本間南氏表敬訪問について

現在、玉造小学校で特別支援教育支援員として勤務されている本間南さんが、ボブスレーの日本代表強化選手に選ばれたということで、お出でいただいた。本間さんは横浜市のご出身で、1997年、6年生の時、小学生の全国大会で100mを12秒73で走り、これが今でも小学生の日本記録として残っている。現在28歳、冬季オリンピック出場への夢を追い求め努力している。市内の学校へ勤務しているということで、学校職員はもとより教育委員会でも本間さんを応援していきたい。夢に向かってあきらめず、努力することの大切さを子どもたちに伝えていきたい。

○11月12日 平成26年度 三師会連絡会について

市内の医師会、歯科医師会、薬剤師会の方々が集まって、年に一度、市役所担当課事務局職員、市幹部職員との懇親会を開催している。懇親会の前に学校保健会から長い間、学校医としてご活躍いただいた矢野仁子先生、また、学校歯科医としてお世話になった故菊池哲先生のお二人に感謝状を贈らせていただいた。三師会の方々が一堂に会して懇親を深める機会は年に一度、この席だけである。互いの思いを遠慮なく語り合える場でもあるので今後も大事にしていきたい。

○11月13日 印旛郡市文化財センター第91回理事会について

文化財センターで理事会があった。内容は来年度事業の見込みと職員数について協議した後、理事長並びに業務執行理事の職務執行状況について報告を受けた。年々文化財センターの仕事量が減ってきていて、運営が難しくなっている状況は変わっていない。今後も厳しい状態が続く見込みである。

○11月14日～18日 市職員採用面接について

3日間にわたって職員採用の最終試験が行われた。今回は初級職と保育士、消防職、救急救命士、保健師、歯科衛生士の採用面接試験だった。既に何年も経験した方もいれば、来春大学や高校を卒業する方もいて様々な年齢層からの受験であり、面接する側も大変難しい選考となった。

《教育長報告に対する主な質疑》

委員：11月10日の下総みどり学園の北総教育事務所所長訪問に同行した。4月の大栄地区小学校統合推進委員会での訪問から久しぶりの訪問になったが、順調に進んでいると思った。学校要覧の重点目標に「自己有用感が高く、思いやりの気持ちを積極的に実践できる子供の育成」とあり、初めて目にする言葉だが、生徒が自分を大事にできるような教育をしていくということで素晴らしいと思った。また、校長から日本一仲のいい職員集団を目指すという話があり、先生方が一枚岩で行くという姿勢が、一番子どもたちのいい環境を整えるために必要だと感じた。

委員：11月5日の印教連視察研修で、松戸市上本郷小学校の英語活用科を興味深く拝見させていただきしたが、こちらでは、ハートでイングリッシュという教材を使っていたことや小学校3年からへボン式ローマ字を教えていたこと、小学校で中学校の分野まで学習し、中学校では2年までに中学の英語課程を終わりにするようにして中学英語へのスタートがスムーズであることや書くことに抵抗がないとの説明に興味を持った。6日に成田小学校の管理主事訪問に同行したが、松戸市の5年生がやっていたキーワードゲームを成田小学校の2年生がやっており驚いた。内容的にも成田小学校のALTの先生の方がいろいろな工夫をされており興味をひいた。成田小学校は、2年生と4年生を拝

見したが、生きた会話が出来ていて成田の英語教育のレベルの高さを実感した。ただ、前回の会議でもあったが、中学校になると英語が嫌いになるということは否めないのかなと感じた。中学になると受験英語が中心になるので、せっかく小学生が楽しく身につけた英語を中学校に進んでも楽しさを持続しながら学んでいけるような方法を考えていただきたい。学校訪問の話に戻るが、成田小では、パワーポイントで学校の経営説明をしていたが、とてもわかりやすい説明で、管理主事も「要覧がマニフェストになっていますね」と感心されており、私も拝見したが、わかりやすい言葉でよく説明がされていた。授業は、算数の授業がとてもよく、子どもたちが良く意見を出し合いながらやっていたが、いろいろな考え方があるということが分かり興味深い授業だった。学力状況調査で、成田小学校のレベルは、県や全国のレベルを上回っているということなので素晴らしいと思った。やっぱり子どもを見ていて分かるのは家庭学習をすごくよくやるようになったということで、学校の努力の積み重ねだと思うが、子どもたちが深く踏み込んで勉強をしているということが、親の立場からもよく分かる。

委員：ある中学校を訪問した時に、午後の授業中に机に頭をのせて寝ていた生徒が何人かいたのですが、以前でしたら所長訪問などお客さんが来る時くらいは、きちんとしているところを見せるようにとの指導をされたと思うので、少し複雑な気持ちでした。

委員長：11月3日に玉造中の30周年記念式典に参加したが、講演は、6期卒業生で落語家の三遊亭金朝師匠で大変素晴らしい講演だった。「中学校で何を頑張ればいいのか。何を頑張ったら大人になっても通用するのか」など、とても分かりやすく面白くお話をされた。次に、「日本の祭りin成田」は、2日間参加したが、あまり全国的な祭には行ったことはなかったので、花笠踊り、娘すずめ、阿波踊りやなまはげ太鼓など大変素晴らしい演奏と人を引き付ける踊りで、自分も行ってみたいくなるような素晴らしい2日間だった。11月9日は、伊能歌舞伎に参加したが、大須賀小学校の子どもたちが白波5人男を大変良く頑張って演じていた。この伊能歌舞伎を発展させていくためには、小学校から中学校に入ってもクラブ活動を作るなどして興味を以て続けられればと思う。

### 3. 議 事

#### (1) 議 案

議案第1号 教育に関する事務の点検及び評価について

#### 【伊藤教育総務課長 議案資料に基づき説明】

##### (要旨)

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条第1項に基づき、教育に関する事務の管理や執行の状況について、成田市教育事務評価委員による点検及び評価を受け、その結果を報告書としてとりまとめを行い、議案として提案する。本報告書は、本日の教育委員会会議において可決いただいた後、この後、市議会12月定例会に提出するとともに、市のホームページでの公表を予定している。本年度の点検・評価会議は、7月29日、9月24日及び10月14日の3日間で実施した。点検・評価は、施策の体系に基づき、教育委員会各課が所掌する全150事業の中から抽出した39事業について、決算関係や行政評価の資料の調査、担当課ヒアリング等を実施し、各委員に個別評価していただき、別冊のとおり報告書として取り纏めた。なお、評価対象事業については、事業の経年の状況をみるために、継続して評価対象としていく必要があり、このため本年度は、32事業が昨年から継続、7事業を新規に対象とした。報告書の1ページ、施策の基本目標として「学校教育の推進」、「生涯学習の推進」を掲げている。2ページ、施策の体系として、基本目標の実現のために、3つの柱を基本施策として、個別事業を推進するための指標としている。

柱1 「成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る」

柱2 「子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する」

柱3 「生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する」

施策ごとの評価について、説明する。3ページ、柱1、「成田の個性を活かした国際交流・地域文化の発展を図る」については、今回の総合評価としては、「B：概ね目標を達成できた、または目標達成に向けて進んでいる」という結果。評価所見では、事業の推進体制や、先進的な国際理解教育や英語教育を実施している点については評価をいただいているが、一層の推進を図るために、国際空港の立地を活かした、成田らしい企画を検討してはどうかという意見をいただいた。また、歴史・伝統文化の分野については、事業の成果を市民にフィードバックすべ

きであり、文化継承の重要性を広く周知するためには市民目線の資料づくりをはじめとした啓発事業が必要であるとのこと指摘をいただいた。12ページ、柱2、「子どもも大人もともに学び育つ教育を推進する」については、総合評価として、「A：目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる」という評価。評価所見では、事業の内容、方向性ともに評価をいただき、事業の一層の充実が求められたところである。対応が難しい事業が多いなかで、それぞれの成果を上げているが、新しい意見を求めたり、他市との比較等を行うことなどにより、事業内容を見直すことも必要であり、ある目標が達成された事業については、さらに新しい目標を定める等、思い切った改革を行いながら、事業を推進すべきとのこと意見をいただいた。

37ページ、柱3、「生涯を通して学びスポーツができる環境づくりを推進する」については、総合評価として、「A：目標を達成できた、または目標達成に向けて順調に進んでいる」ということであった。評価所見では、生涯学習事業については、事業の継続は重要なことであるが、定着した事業であっても、必要に応じて新しい目標を掲げて再出発を検討してもいいのではないかとご意見をいただいた。また、個別事業については、昨年度の評価結果を受けて、改善や工夫がみられることについての評価をいただいた。本年度の評価結果は、柱1：B、柱2：A、柱3：Aとなり、この結果は、昨年度と同様となった。各事業担当課においては、この評価結果をしっかりと受け止めて事業の執行に適切に反映してまいりたい。

#### 《議案第1号に関する主な質疑》

委員：教育長報告の意見で述べさせていただいたが、5ページの英語科研究開発事業の表現で、「中学校での上積みにも上手く繋がっていないことはないか、改めて検証されたい」とあるが、私としては検証するまでもなく繋がっていないと思うが。

伊藤教育総務課長：それぞれの意見をお持ちだと思うが、これは、あくまでも点検評価委員が評価しての意見なので、教育委員会としては、これを受け止めて検討していくことになる。

委員：27ページ教育センター運営事業の評価は、「今後も充実した支援をお願いしたい」

とか「継続した支援体制が必要である」となっているが、予算は毎年減額されている。予算面では評価の期待に反して重みがだんだん薄れていくように見える。

伊藤教育総務課長：評価は、平成25年度で行っているが、評価委員への内容説明において、委員の方々も予算の減少を気にしていたようで、支援が必要であるという意見をいただいた。

#### 《審議結果》

可 決

議案第2号 平成26年度末及び平成27年度成田市立小中学校教職員人事異動方針について

#### 【柳鶴学務課長 議案資料に基づき説明】

(要旨)

初めに千葉県の本年度末及び平成27年度公立学校職員人事異動方針について要点を説明する。人事異動方針1ページ、公立学校職員人事異動方針を定める目的は、各学校が校内組織を活性化し、今日的な教育課題に積極的に取り組むとともに、県民に信頼される学校づくりや特色ある学校づくりを推進し、県教育の一層の振興を図ることと定めている。その目的を達成するため、第1に一般方針、第2に実施要項を定めている。この人事異動方針については、昨年度と比較して、一部に項目及び文言の追加・調整はあったが大きな変更はなし。この人事異動方針に基づき、県教育委員会では、別に人事異動実施細目を定め、市町村教育委員会及び学校職員に、その趣旨の周知・徹底を図ることにより、適正な人事配置に努めるとしている。3ページから5ページがその公立小中学校人事異動実施細目、その他6ページに資料を添付した。こちらは項目の整理、文言の調整はあったが、大きな変更はなし。説明を加えると、実施細目3ページアンダーラインで示したが、1の適正配置について、(1)に、同一校に7年以上勤務する者については、積極的に配置換えを行う。(2)に、特に、若年層における他の市町村への配置換えは計画的に推進するとともに、他の市町村での勤務経験がなく、同一市町村に10年以上勤続する者が異動する場合については、強力に配置換えを行う。と、ある。(2)のアンダ

ーライン部分は、新たに追加された文言。(1)(2)については、市町村の内申を尊重しつつも、県内全域の適正な配置を視野に入れ、異動の基本原則を定めたもので、同一校勤務7年を経過した者は、本人の異動希望の有無に関わらず、積極的に異動対象とすること、また、同一市町村勤務10年以上経過した者が異動する際には、積極的に他の市町村に異動させるといった県の方針を具体化している。この「10年以上経過した者」については、その文言に、「異動する場合は」と書かれており、異動しない場合は、これに該当しないという考え方ができ、同一校7年に比べ、やや、意味合いの違ったものであると解釈できる。

本題の議案第2号について説明する。平成26年度末及び平成27年度成田市立小中学校県費負担教職員の人事異動は、県教育委員会の「公立学校職員人事異動方針」並びに「人事異動実施細目」に則りつつも、以下の方針のもとに内申を行う。新旧対照表で説明すると、1番は基本方針であり(1)から(3)は、大きな変更はないが、(4)は、去年は統廃合があったため、個別の方針を記載したが、本年度は、「小中連携教育をより一層推進するため、小学校と中学校の教職員の計画的な人事交流を推進する」とさせていただいた。3番管理職については、変更はない。3番一般職員については、(3)について文言の調整をした。去年は、新規採用後3～5年目の教員については、「人材育成の観点から本市で積極的に配置し資質の向上を図る」としていたが、本年度は、「新規採用後3～5年目の教員が異動する場合は、人材育成の観点から本市内の配置換えを原則とする」とした。(6)は、追加項目として「小中連携教育の充実を図るため、異校種間の計画交流(小学校教員を中学校へ、中学校教員を小学校へ)を積極的に行う」を追加した。(7)、(8)は、項ずれのみ。(9)は文言の調整。

#### 《議案第2号に関する主な質疑》

委員：中学校と高等学校の教諭の交流については、市教育委員会には関与していないのか。

柳鶴学務課長：義務教育である小中学校と県立である高等学校の交流については、県費職員であることから県教育委員会が人事交流を進めている。現在、本人の希望によって調査を行っているが、本市の規程は、あくまでも県費負担ではあるけれども成田市の職員として内申できる職員についてのみ規定をさせていただいている。

関川教育長：人数は多くないが、実際に希望もあり交流も行っている。

委員：私は、高校の方が関わりは深かったが、意外と中学校と高校間の交流で良い先生が来ることが多いので、もし市内の中学校にも来ていただければと感じた。

柳鶴学務課長：成田市内の小中学校の職員については、管理職で対応が行われている、一般職についても良い方が成田市に来ていただければと思う。

委員：人事交流は、本人の希望があれば出来るのか。

柳鶴学務課長：希望する職員と教育委員会として期待する職員の中から進められればと思う。

委員：親の立場でいうと中学校の先生に小学校で担任をしていただいたことがあるが、子どもの扱いなどあまり良いイメージがなく、希望するというのであれば本人も努力をすると思うが、小学校と中学校の雰囲気は違うので、中学校の雰囲気をそのまま小学校に持って行かれるのは、いかがかと思うので、人事交流については、子どもたちの扱いについて研修をするなど十分に考慮をしていただきたい。

関川教育長：小学校から中学校へ行く例はあるが、中学校の教師が小学校の担任をする例はほとんどない。今回、下総みどり学園で小学校と中学校がいっしょになった例があるが、中学校教師が小学校の担任は出来ないと思うが。

柳鶴学務課長：昨年度末の県教委の回答では出来ないとしていたが、先日、学務課の職員が出席した全国小中一貫サミットで文部科学省の審議官が講演の中で、「現在でも出来る」と説明していることから、小中一貫の取組みが全国的に多くはなっているが、人事の問題では解消できない部分があるという表れかと考えている。

関川教育長：昨年、下総中学校から下総小学校に異動になり、現在下総みどり学園の5年生の担任をしている教師がいる。

委員長：関連して、中学校教師の免許は持っているが、小学校の免許を持っていない教師は、小学校で担任を出来るのか。

柳鶴学務課長：免許制ですので、教科指導は出来るが、学級担任になるには学校種に応じた免許が必要。先程、説明させていただいた県教育委員会の実施細目で「複数の学校種における職務経験を積むことにより、職員の資質向上と人材育成を図るため、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校間の異動、時事交流を推進する。特に、小学校での教科指導や生徒指導の充実を図るため、中学校教員の小学校への計画交流をより積極的に行う」という文言が、昨年度から追加されている。

関川教育長：実際には、ほとんどやっていないのではないか。

柳鶴学務課長：件数は少ないと思う。

委員長：結局小学校の教員免許がなければ、学級担任は出来ないので、教科指導しか出来ない。

柳鶴学務課長：今、小中一貫教育を制度化しようとして議論をしている中で、教育免許は大きな課題となっている。特に、中学校と高等学校の免許については、大学の教職課程を取る場合には、一括りで取得することが出来るが、小学校については、別の教職課程になり、免許を取る課程において違いがあり、その壁を超えることが難しいものとなっている。

委員長：そのようなことがあるから中学校の先生が小学校の担任をすることは難しい。

関川教育長：実際、中学校で良い指導をする先生は、なかなか中学校が離してくれないという

ことがある。

委員長：記載された方針のとおりには、なかなかいかないと思うが、学校が抱える諸課題に積極的に取り組める人物を市内外を広く見渡していただき配置していただきたい。積極的に取り組める管理職であれば学校は変わると思うが、消極的で管理職という冠を被っているだけでは学校改革は進まないし、学力も上がらないと思う。よく教育事務所の訪問の際に校長の説明を聞くと学力向上を必ず唱えるが、前年より実際に上がっている学校が幾つあるのか、それほどはないと思うので、これは、管理職の姿勢そのものだと思うので、管理職の配置についてよろしく願いたい。また、教頭についても意欲にあふれて、責任感、管理能力、実践力のある人材を確保するため他市町村との人事交流を積極的に推進されたい。

《審議結果》

可 決

(議案第3号は、成田市教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

議案第3号 (仮称) JR成田駅東口再開発ビル文化施設の設置及び管理に関する条例等の制定等について

《審議結果》

可 決

<非公開を解く>

(2) 報告事項

報告第1号 「成田市学校教育振興基本計画」策定にあたってのアンケート調査報告書について

【伊藤教育総務課長 鈴木計画調整係長 資料に基づき報告】

(要旨)

学校教育振興基本計画策定を行うための基礎調査として、夏休みに調査を行い結果がまとまったため報告する。内容としては、第1章が調査概要、第2章から第5章は、それぞれ小学生・中学生・保護者・教職員のアンケート結果になっている。

(これより鈴木係長)

主な内容につきまして、平成12年アンケートの結果との比較により説明する。説明資料1ページは「学校生活は楽しいか」という設問。12年と26年でそれぞれ小学生と中学生に分けて、(とても楽しい・まあ楽しい)と(あまり楽しくない・まったく楽しくない)をまとめた。「とても楽しい」「まあ楽しい」と回答した小学生は僅かに減り、中学生は僅かに増加。また、「あまり楽しくない」「まったく楽しくない」と回答した小学生は僅かに増え、中学生は僅かに減少。なお、調査対象人数は、小学生は12年が786人、26年が2,326人、中学生は12年が333人、26年が1,069人と対象数を増やしている。2つ目は、「将来の夢や目標を持っているか」という設問。「持っている」という回答は僅かに増加したが、「持っていない」という回答もやはり僅かに増えている。この設問については、今回は中学生にも尋ねているが、12年ではなかったことから、ここには記載しない。2ページ、3「心配ごとなどで不安に感じることもあるか」という設問。「よくある」「ときどきある」と回答した小中学生はともに減少しているが、その傾向は中学生の結果に顕著に表れている。また、「ほとんどない」「ない」と回答した小中学生は増えている。これは、中学校には全校に千葉県のスクールカウンセラーが配置され、小学校には市の教育相談員が拠点校、平成25年度実績では8校に4名を配置していることの効果ともみることができると思う。次は、「心配ごとなどがある場合、その要因は何か」という設問。平成26年は平成12年と比較して調査対象数が約3倍になっているが、小学生では大きな違いはない。中学生は、「進路・進学に対する」ことが2番目から1番目になっているが、平成12年の45.6%に対し、平成26年は42.7%と、その割合は大きく変わっていない。なお、平成26年では「心配ごとや悩みはない」と答えた小学生が約40%、中学生が約25%だった。3ページ、5「心配ごとなどがある場合の相談相手は誰か」という設問。調査対象数が約3倍になっているが、小学生では同じ結果となった。中学生では、「担任の先生」が3番目から4番目に下がる結果となったが、平成12年の7.8%に対

し、平成26年は8.6%と割合は大きく変わっていない。次は、「どのような先生に教わりたいか」。なお、平成12年は「どのような先生が好きか」という表現。調査対象数が約3倍になったが、小学生では大きな違いは生じていない。中学生では、「教えるのが上手な先生」が平成12年の44.7%に対し、平成26年は83.3%になり1番目となった。4ページ、7「地域行事に参加しているか」という設問。小中学生ともに、「参加している」が減り、「参加していない」が増加。なお、この傾向は中学生の結果に顕著に表れている。地域行事自体が減っているのかもしれないが、少子高齢化や核家族化等の社会情勢の変化を背景として、子どもたちの地域離れが進んでいる結果とみることもできる。次は、「学習塾に通っているか」という設問。これは中学生のみに対する設問で、学習塾に「通っている」生徒は、減少傾向にあり、学校の勉強を主とした基礎学力の定着に向けた取り組みが一層重要になっていると考える。5ページ、9「学習塾に通ってよかったことは何か」という設問。これは、学習塾に通っていると回答した生徒のみに対する設問としている。調査対象数が約3倍になっているが、大きな違いは生じていない。次は、「将来どのような人になりたいか」という設問。こちらも中学生のみに対する設問で、調査対象数が約3倍になっているが、1番目、2番目は変わっていない。一方で、平成12年には3番目であった「自分で道を切り開く人」と5番目であった「自己の主張や個性をはっきりと出す人」がそれぞれ7番目、8番目になった。次は、「自分の子どもにはどんな人になってもらいたいか」という設問。ここからは保護者の方に対する設問で、調査対象数が大幅に増えて、約30倍になっているが、結果に大きな違いはなかった。1番目、2番目が入れ替わっているが、平成26年の「物事の善悪を判断できる人」が83.5%、「健康で丈夫な人」が80.7%とその差は僅か。6ページ、12「子どもの教育で悩むことはあるか」という設問。「日常的に悩みを抱えている」「時々悩むことがある」がいずれも増えており、「悩むことはほとんどない」が減少。保護者の年代が低いほど、悩みを抱える割合が高くなる傾向がある。児童生徒だけでなく、保護者に対する相談事業等の必要性が高まっているとも考えられる。次は「子どもの教育で悩んだときの相談相手は」という設問。結果に大きな違いはないが、平成12年では30.8%で4番目であった「クラス担任」が19.6%で5番目になっている。

7ページ、14「成田市の学校教育では、今後どのような点に力を入れていくことが望ましいか」という設問。これは、平成12年と26年で選択肢の一部を変更している。平成12年では37.5%で3番目であった「国際交流・国際理解を重視した教育」は、平成26年は「英

語教育や国際理解等を重視した教育」として選択肢の表現に違いがあるものの62.6%で1番目になっている。平成26年に「心の教育（道徳教育）」は2番目になっているが、59.4%で1番目との差は僅か。平成26年に3番目の「いじめ防止の取り組み強化」という選択肢は平成12年にはなかった。なお、小学生の保護者と中学生の保護者では結果では、1番目と2番目が入れ替わっていたり、4番目、5番目に違う内容が入っていたりと、違いがみられる。

8ページ、15「成田市の学校教育では、今後どのような点に力を入れていくことが望ましいか」という設問で。教職員の結果。平成12年と26年で選択肢の一部を変更している。平成12年は63.9%、平成26年は60.9%で「心の教育（道徳教育）」が重要視されており、小中学校を問わず、同様の結果となっている。平成26年に2番目の「いじめ防止の取り組み強化」や3番目の「小中連携教育の推進」は平成12年の選択肢にはなかった。保護者の結果と比較すると、「心の教育（道徳教育）」が重要視されている点は同様だが、それ以外は微妙な違いがある。保護者（全体）では、1番目の「英語教育や国際理解等を重視した教育」が中学校教職員では7番目になっている。なお、小学校の教職員と中学校の教職員でも結果に違いがみられる。9ページ、16「学校の活動（PTAや学校行事等）にどの程度関わる意向を持っているか」を保護者に尋ねたもの。調査対象数が約30倍になっているなかで、選択肢の表現に多少の違いがあるが、「積極的に参加する」が増加している。一方で、平成12年にはなかった「あまり参加したくない（関わりたくない）」が平成26年には5.9%あった。次は、「保護者や地域の方に学校の活動（PTAや学校行事等）にどの程度関わってほしいか」を教職員に尋ねたもので、選択肢の表現に多少の違いがあるが、「積極的に参加してほしい」が大きく増えており、「学校行事等に（時折）参加してほしい」が減っている。このように、保護者も教職員側も学校活動への参加を積極的行いたい、行って欲しいという割合が増えていることが表れている。10ページ、18「学校における児童・生徒の生活に関して問題だと思われる点は」という教職員への設問。調査対象数が約3.5倍になっているが、結果に大きな違いはない。ただし、12年では、あまり表れていなかった小中学校の教職員の違いが、26年では一部には表れている。11ページ、19「現在の教員研修制度について」についての設問。調査対象数が約3.5倍になっているなかで、「質（内容）・量（機会）ともにほぼ満足」は増え、「質に対する不満」、「量に対する不満」、「質、量ともに不満」が減る結果となっている。現在の研修事業が教職員のニーズに合っていることがうかがえる結果となっている。次は「教員研修制

度の内容・方法として重要だと思われるものは」という設問。平成12年は、1番目が「生徒指導に関する研修」で60.5%、2番目が「教科・科目や特殊教育に関する研修」で58.8%と僅かな差だったが、平成26年では1番目が「教科・科目や特別支援教育に関する研修」で70.6%、2番目が「生徒指導に関する研修」で59.9%と入れ替わり、その差は大きくなっている。「パソコン等情報化に関する研修」「ICT等情報化に関する研修」や「人権に関する研修」変わらず上位となっている。なお、小中学校の教職員に、違いはなかった。現在、アンケート調査の結果については、様々なクロス集計やこのような前回調査との比較等の分析作業を行っており、これらの結果を今後の計画策定の基礎資料として活用したいと考えている。また、このアンケート結果については、市議会12月定例会の教育民生常任委員会でも報告を行い、その後市のホームページを通じて公表する予定。平成12年から平成26年と約15年の隔たりがあり、サンプル数も違うが、この中で子どもたちや保護者、先生の意識の差が読み取れるかと思う。また、今後は、クロス集計をして教育振興基本計画や教育体系の検討に活用してまいりたい。

#### 《報告第1号に関する主な質疑》

委員長：35ページの保護者の住まいについて、成田が26.9%、公津17.1%、ニュータウンが25.7%と突出しているが、どのようなアンケートの取り方をしたのか。

伊藤教育総務課長：保護者については、小学校4年、6年、中学校2年、全ての方で市全域を対象としている。

委員長：3地区だけ偏っていると思うが。

鈴木計画調整係長：市内の全ての小学校4年、6年、中学校2年の保護者を対象としている。アンケートは学校を通じて行い、保護者の方がそれぞれ○をつけて、返却されたもの。

## 報告第2号 平成26年度第2回学区審議会の報告について

### 【柳鶴学務課長 資料に基づき報告】

(要旨)

1 1月7日開催の平成26年度第2回学区審議会、会議内容を報告する。議題としては、今回は、特に学区審議会に諮る議案はなく、報告事項が2件、他に審議事項が1件。報告事項の1件目は、指定学校変更・区域外就学許可基準の要件の変更について、2点報告した。1点目は(1)報告事項・報告第1号①の基準第4号「良好な友人関係等の継続や学期末・学年末に関するもの」のうち要件(3)について、現行では、小学校において卒業まで指定学校変更を承諾された児童が、変更後の小学校の児童が進学する中学校への指定学校変更を希望する場合には、「友人関係の継続」を理由に許可されるとなっている。この要件については、現行では、転居・養育・より近くの学校の3つの理由が示されているわけであるが、実際の運用においては、これらの理由以外に許可された場合においても、基準第4号を適用して、友人関係の継続から中学校の指定学校変更を認めている。このようなことから、実情に即して、文言を変更し整理した。また、現行では、注釈(ただし書き)を設け、変更後の学区に2つの中学校がある場合には、居住地からより近い中学校を指定してきたが、要件の趣旨や実情を考慮して、この注釈を削除することとした。2点目は、資料の2ページ②の区域外就学を許可する場合において、申請時に必要な書類に「住民票」を加えた。現行では、申請者の申し出により受付しているが、正確な氏名や住所、国籍等を把握するために、成田市外からの区域外就学を希望する場合に、あらかじめ申請時に住民票の提出を求めることとした。2点とも、実情に即した運用という観点から変更することを報告した。次に、平成27年度入学者の指定学校変更の受付が始まっているので、指定学校変更・区域外就学の状況について、現在の受理件数とその要件について報告を行った。指定校変更の受理件数は全体で69件。変更理由としては、より近い学校・兄弟姉妹・養育が変更理由の大半を占めている。その他、中学校では部活動によるものが8件、児童ホームによるもの2件、相談を受けている案件があったので、別に報告させていただいた。なお、部活動については、余裕教室がないことから成田中と西中は受け入れることができない学校としている。その他に、学校適正配置に係る課題について、学区審議会において意見を伺ったので、その報告をする。平成20年3月に示した学校適正配置調査報告書に基づく計画に

については、現在進めている大栄地区の5つの小学校を統合することで終了する。これまで、過大規模校の分離新設、過小規模校の統合、さらに学区の見直しを進めてきて、一定の成果を得てきたが、学校によっては、計画当初の児童生徒数の予測と異なり、学級数に変動が生じる状況が見られ、その結果、新たな課題が出てきている。そこで、今回、学区審議会において意見を求めることとし、審議会においては、成田市における児童生徒数の推移を学校ごとに示したものを配布したが、特に市民の方から意見をいただいている加良部地区を中心に協議していただいた。加良部地区には、加良部小学校と新山小学校の2つの学校があり、学校規模では、加良部小は平均4学級、新山小は4年生以上が2学級、3年生以下が1学級となっている。市民の方や議員からは、学区を変えることで新山小も複数学級が可能になることから、学区の見直しを求める意見をいただいております、委員の皆さまに意見を求めたところ、活発にご議論いただき、資料に記載しましたような意見をいただいた。教育委員会としては、学校規模という観点からは、確かに不均衡ではあるが、今すぐ学区を見直さなければいけない状況とは考えてはいない。しかしながら、学校適正配置の課題については十分認識しており、今後も継続して意見を求めていくこととした。

#### 《報告第2号に関する主な質疑》

関川教育長：加良部小学校と新山小学校の関係については、委員の皆様からのご意見をいただきたい。

委員：統合した方がいいという主旨か。

関川教育長：両校とも同じ加良部地区でありながら、加良部小は、各学年4学級、新山小は1から2学級と同じ地区で偏りがあるのは不公平ではないかという意見が、市議会的一般質問であったことから皆様のご意見を伺いたい。

委員：加良部小学区の一部を新山小学区に移すとしても線引きが難しくなると思う。

関川教育長：議会答弁では、仮に加良部小学区の一部を新山小学区に移すとしたら、加良部小学校の子どもたちは、加良部小学校に通いたいと思っているわけで、途中から学区が変わることは、抵抗があるのではないかと、数合わせで学区変更が出来たとしても子どもの心やこれまでの経緯などを考えると簡単には出来ないと回答した。多分、加良部小学校から、すぐに新山小学校に移ってもいいという子どもはあまりいないと思う。

委員：統合ということなら分かるが、加良部小学校の児童の一部を新山小学校に移すというのは無理ではないか。

委員：話が変わりますが、区域外就学を許可する時は、必要書類に住民票を加えるとなっているが、申請する時が入学や始業式間近などの場合、住民票が無くても特別に受け入れていただくようなことは、していただけないか。

柳鶴学務課長：引っ越してきたばかりで住民票が取れない状況においてか。

委員：引っ越したばかりで、まだ住民票を動かしていない場合など。

柳鶴学務課長：成田市に建築予定であるとか、引っ越す予定があるということであれば、契約書などで確認が出来るので、住民票の異動がされていなくとも可能。

委員長：加良部学区の問題に戻るが、加良部小学区はこれから徐々に人数が減少していくのか。

柳鶴学務課長：少なくなる傾向はあります。

委員長：加良部小学校と新山小学校はすぐ近くにあるわけなので、それを学区変更することは、保護者が大変なことになると思う。どうしても解消するというのであれば学区の変更ではなく加良部小学校に統合するしか解消方法はないと思う。それであれば反

対意見は少ないと思うが、学区の変更は、難しいと思う。先程も申しましたが、両校が近すぎるので、学区の線引きは難しい。

委員：地域の方のご意見ということですが、どの様な方の意見か。

柳鶴学務課長：一部ですが、保護者など学校関係の方々からだとうかがっている。

関川教育長：新山小学校関係の方のようです。

委員：新山小学校を加良部小学校へ統合するという考えは、新山地区が、地域コミュニティがすごくしっかりして団結力がある地域なので難しいと思う。また、加良部小学校から新山小学校に児童を移動させることは、距離を考えると1・2丁目あたりが対象かと思うが、1丁目は西中学校と中台中学校の学校選択の問題があったばかりで、また、同じようなことを繰り返すことになり、その子たちが新山小学校に行くことになる、中学校は、西中学校を選ぶと思いますので、ますます中台中学校の生徒が減ってしまうことになる。中学校のことまで考えてそのような意見を述べられているのかと思います。

関川教育長：意見を言われた方は、加良部2丁目を新山小学校へと提案されていた。

委員：加良部2丁目だけといったら2丁目の方々が「何でうちの所だけ」と言うと思う。中学校の学区のこともあったので、うまくいくとは思えない。私も元加良部住民でしたので、今から学区変更をしてくれと話しがあったらいやだと思う。新山小学校区の近隣の江弁須や飯田町の学区を新山学区に変更するという考えもあると思うが、それはそれで古くからお住いの方が多く親の代から加良部小学校に通われていた方も多と思うのでやはり難しいと思う。

報告第3号 学校支援地域本部事業について

## 【柳鶴学務課長 資料に基づき報告】

(要旨)

本事業は、国の委託事業であるとともに、地域住民が学校支援ボランティアとして、学校活動をサポートする体制を整備し、地域とともに歩む学校づくりを推進するもので、実施理由としては、子どもたちの生活・学習する環境は、情報化の進展や価値観の多様化など、変化が激しく、学校はこれまで以上に様々な課題を抱えていることから、地域の力を借りて学校を支援していくことが求められている。これまでも各学校では、地域のボランティアの協力を得ながら学校運営や教育活動を行っているが、学校支援地域本部は、そうした取組を更に広げ、発展させて組織的なものとし、学校の求めと地域の教育力をマッチングして、より効果的な学校支援を行う。また、学校支援地域本部は学校・家庭・地域が一体となって、地域ぐるみで子どもを育てていこうというものであり、地域の方が、学校や子どもたちの教育に関心を持ち、積極的に参加していただくことがとても重要になる。一人でも多くの方にぜひ参加していただき、地域全体で子どもたちの教育に携わっていただけるよう学校・家庭・地域の連携による教育支援活動の促進を図っていく事業にしたいと考えている。このたびの報告は、教育委員会として、学校支援地域本部事業による効果的な学校支援活動等を検討する観点から、十分な意見聴取及び協力体制の構築を図るために、「運営委員会」を設置することとした。

### 《報告第3号に関する主な質疑》

委員：学校と地域の協力は、以前から言われているが、あまり地域が学校に入りこむと学校としても迷惑ではないかと。社会福祉協議会に携わっていたので、その会議で、校長会の意見としてあまり学校に関わっていただきたくないという主旨の意見をいただいたことがある。どうしても学校側に意見を押し付けてしまうようになってしまうので、学校も余裕がないので、自分としては学校側に迷惑ではないか配慮をするよう心掛けてきた。国の施策は「開かれた学校を」ということで行うのでしようが、この施策を進めることが学校にとって良いのか、持っていく方を誤ると学校が大変ではないかと思う。良い事だから「どんどんやれ」というような持って行き方ではなく、いい

方向を検討するというスタンスでないと学校にとって迷惑でないかと思う。

柳鶴学務課長：これをやることにより学校の負担が増加するのではないかという意見をいただいているので、あくまでもこの事業は、学校を支援していただくという取組にしたいと思う。ですから学校のニーズが、どこにあるのかということをも最優先にした支援活動に持って行きたいと考えている。今回、本事業に係る予算を計上するが、ボランティアに対する謝金はない。ただし、学校と地域の間においていただくゴーディネーターのみ謝金をお支払いすることを検討している。

関川教育長：先程、社会福祉協議会の話があったが、協議会から学校に持ち込まれるお話は、福祉体験やお年寄りとの交流が子どもにとって良い、子どもの教育にいいのでやってほしいというような内容ですが、今回の提案は、学校の求めに応じてというか、学校が助けてほしいということを取り取って支援をするという組織ですので、協議会から提案を持ち込まれた時のような反応はないと思う。例として、下総みどり学園では、教師が朝6時半には出勤してスクールバスを出しているが、1年間通して朝は6時半出勤、帰るのが午後8時、9時と遅くなると職員が疲弊してしまう。このような時に地域の方の力を借りられないか、あるいは、学力の向上を目指したいといった場合に社会人大学などで学んだ方々に、例えば算数の時間に来ていただき一緒に指導していただくとか、また放課後に学習指導をしていただくというような支援が出来るのではないかと構想を描いている。学校によって求める支援が違いますので、学校の求めるニーズを把握して、それに沿ったサービスを提供できたらということが、この事業立ち上げのきっかけなので、委員のご心配に十分注意してまいりたい。

柳鶴学務課長：そのようなご懸念をいただいているので、あくまでも学校のニーズに応じた活動を進めていきたいと思う。

委員 長：ボランティアを登録して、その中から学校のニーズにあった方を無償で派遣するということか。

柳鶴学務課長：例えば、学校毎に、下総みどり学園なら下総みどり学園学校支援地域本部を設置し、その学校の本部が地域の方に対し、ボランティアの協力依頼をしていくことになる。その本部にコーディネーターを派遣し、学校とボランティアの交渉を任せる。実際に学校では、現在もボランティアを活用しているわけだが、学級担任や指導をしている先生が、電話で交渉してボランティアに来ていただく当日を迎えるまでやっているが、その部分を含めてコーディネーターが調整することを検討している。

委員 長：各学校に一人ずつコーディネーターを配置するのか。

柳鶴学務課長：一気に35校全部進めることは出来ないなので、来年度4校をモデル校として選定し、将来的には全校に進めていきたいと考えているが、さまざまな課題が出てくると思うので、それらを解決したうえで市内全域に広げていきたいと考えている。

委員：学校毎に地域という括りか。

柳鶴学務課長：学校毎です。

委員：たとえば、橋賀台小学校と加良部小学校を一緒にして一つの地域にすれば、それぞれの保護者同士も仲良くなれるのでは。

柳鶴学務課長：現時点では、学校毎にと考えているが、モデル地区として4校を考えているが、その次は8校、全域へ広げたいと考えているが、その中で近隣の地区が分かれているような学区についてどう考えていけばよいか、そこは学校の先生方と相談しながら進めていくことになる。

委員：コーディネーターの方は、研修はどのように行うのか。

柳鶴学務課長：教育委員会での研修も可能だが、国や県に係る事業なので、県においても研修のシステムがある。

委員：昨年、印教連視察で行った葛飾区で拝見した組織と同じか。その時、コーディネーターがいると、今までのPTAなど地域の組織との繋がりが上手く行かなくなったという話をされていたと思うが。

関川教育長：私のイメージでは、葛飾区の学校応援団とは別のものと考えている。

柳鶴学務課長：国の事業で先進事例がたくさんあり、印旛地区でも四街道市、酒々井町、栄町がすでに取り組んでいる。そういった中で目標値を設定していくと学校のニーズに合わない取り組みも出てきてしまうので、学校のニーズに合った取り組みを本市では進めていきたいと思う。

関川教育長：目的は、個々の子どもの学力、人間性の向上で、それを進めるために、あまり学校や教師に負担をかけずに地域の方々と一緒に出来れば良いと考えている。成田市では、生涯大学院や社会人大学などで学んでいる意欲の高い方が多いが、そのような方々の能力を発揮する場所がないので、そのような方に達成感や生きがいを感じていただければ、さらに生き生きとしてくると思うので、最終的には、そのような方々に活躍の場を与えられればという構想を持っている。

委員：目的は学力向上であることをきちんと伝えたほうが良いと思う。ニュータウンにもPTAのOB会があるので、自分たちの組織があるのに何で他の組織でやるのかと思われてしまう。

関川教育長：やはり、平日、日常的に支援をするとなると職を持っている方は難しいので、ある程度決められた方になると思う。

## 報告第4号 2014成田POPラン大会について

### 【大矢生涯スポーツ課長 資料に基づき報告】

(要旨)

11月30日、日曜日、会場を中台運動公園陸上競技場をスタート、フィニッシュで開催する。種目は、ハーフマラソン、10km、3kmの3部門。申込者は、合計で5,501名の申込みがあった。また、遠来者については、北は北海道から、南は沖縄からの参加申込みがあった。最高齢者は、男性は85歳、女性は75歳の方が、参加申込みいただいている。地域別参加者の内訳は、千葉県が4,374名と参加者の大半を占めており、内、成田市が1,746名となっている。昨年が1,613名、136名増えている。ゲストランナーにつきましては、昨年に引き続き、「ユニバーサルエンターテインメント」から、佐伯由香里選手をはじめ、4名の選手をお招し、大会に花を添えていただく。大会役員・競技役員につきましては、大会会長は小泉市長、副会長に市議会議長、教育長をはじめ4名の方々、顧問、参与の方々となっている。教育委員の皆様につきましては、開会式へのご臨席、各部門入賞者への表彰授与者として、スムーズな表彰式を心がけ行ってまいりますので、ご協力をお願い申し上げます。次に、競技役員は、各団体から700名以上の方々に協力いただき、この大会運営を支えている。この中には、救護体制の充実を図るため成田赤十字病院、AED隊として成田市消防本部、また、市内中学校から100名を越える教員・生徒にも、各種業務のご協力をいただいている。大会当日に日程については、開会式を9時から開催し、10時から各部門がスタートし、その後、各部門の8位入賞選手がゴールし、表彰の準備が整い次第、随時、表彰を行い、13時頃に競技が終了する予定。

(報告第5号は教育委員会会議規則により非公開とする議決)

<これより非公開>

報告第5号「学校給食施設整備実施計画の変更について

<非公開を解く>

### (3) その他

- ・成田市史講座「門前町に生きる-過去・現在・未来」(図書館長)
- ・公津スポーツ広場の竣工について
- ・世界サンボ選手権大会の開催について(生涯スポーツ課長)
- ・ふれあいコンサートについて(生涯学習課長)

## 4. 委員長閉会宣言